



NTT 提供のワイヤレス固定電話サービスにおける ファクシミリ対応ガイドライン

一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会
画像情報ファクシミリ委員会

目次

まえがき	1
用語の説明	2
1. ワイヤレス固定電話局でファクス受信する場合	4
1.1. ファクス端末の着信設定	4
1.2. 受信手順.....	4
2. ワイヤレス固定電話局から一般局へファクス送信する場合	5
2.1. プレフィックス番号.....	5
2.2. 通信画質解像度	5
2.3. 通信相手の電話番号	5
2.4. Fコード通信.....	5
2.5. メーカー独自機能	5
2.6. 通信時間.....	6
2.7. TEL/FAX 切り替え.....	6
2.8. ポーリング機能.....	6
2.9. 長尺原稿送信	6
2.10. エラーレポート返送	6
2.11. 発信専用番号：内線交換機（PBX）環境下.....	7
3. 一般局からワイヤレス固定電話局へファクス送信する場合	8
3.1. プレフィックス番号.....	8
3.2. 通信画質解像度	8
3.3. 通信相手の電話番号	8
3.4. Fコード通信.....	8
3.5. メーカー独自機能	8
3.6. 通信時間.....	8
3.7. TEL/FAX 切り替え.....	8
3.8. ポーリング機能.....	8
3.9. 長尺原稿送信	9
3.10. エラーレポート返送	9
3.11. 発信専用番号：内線交換機（PBX）環境下.....	9
4. 困りごと、お問い合わせ	10
4.1. お問い合わせ窓口 局番 113.....	10
4.2. ワイヤレス固定電話.....	10
4.3. NTT 東西からの情報公開	10
5. サービスの主なファクス仕様の対応表	11

まえがき

NTT 東日本株式会社/NTT 西日本株式会社（以下、NTT 東西）が発表した新サービス「ワイヤレス固定電話」（2024 年 4 月 1 日開始）では、ファクス通信も可能となっています。

しかし CIAJ が事前に調査した結果では、ファクス通信において次ページ以降に記述する制約や制限があることがわかりました。

これまで同様にファクシミリをご利用していただくためにも、前記、制約/制限を理解していただき、可能な回避方法を施すための情報を本ガイドラインに示します。ただし、すべての制約や制限がファクシミリ機器やファクスサービス側で回避できるというわけではありません。

本ガイドラインは、基本的に各社保守・サービス部門およびご担当者向けの情報共有を主としております。各社にてファクシミリをご利用のお客様への情報提供やお問い合わせの際に活用してください。

また、NTT 東西提供以外のワイヤレス固定電話サービスの対応については、本ガイドラインには記載してありません。

本ガイドラインは、今後予告なく変更されることがあります。

用語の説明

このガイドラインで使用する用語の意味は次の通りです。

(1) ターミナルアダプタ

NTT 東西がワイヤレス固定電話を提供するために、アナログ端末を接続する際に利用する専用機器のことを示します。サービスご契約時に NTT 東西より提供されます。

(2) ファクスサーバー

NTT 東西がワイヤレス固定電話を提供するために、ワイヤレス固定電話網の中に設置される専用のファクスサーバー機器のことを示します。ファクスサーバーは一般局のファクス端末との通信に加え、山間部や離島部にあるファクス端末とターミナルアダプタを介して通信します。

(3) TSI

ファクス通信プロトコル上で交換される情報で、送信元の電話番号を示します。

TSI : Transmitting subscriber identification の略語

(4) CSI

ファクス通信プロトコル上で交換される情報で、送信先の電話番号を示します。

CSI : Called subscriber identification の略語

(5) スーパーG3

ファクス通信でのデータ転送速度規格の名称です。最高 33.6kbps でデータ転送できる規格を示します。

(6) ノーマル G3

ファクス通信でのデータ転送速度規格の名称です。最高 14.4kbps でデータ転送できる規格を示します。

(7) Fコード通信

情報通信ネットワーク産業協会が定めたファクス通信手順の 1 つを示します。F コード通信機

能を持つ機種間のファクス通信では、さまざまな機能が使用できます。

ファクス通信プロトコル上では SUB/SEP/PWD/SID といったコマンド信号が交換されます。

SUB : Sub address の略語

SEP : Selective polling の略語

PWD : Password の略語

SID : Security identification の略語

(8) PBX

企業などの拠点内に設置し IP 電話などの外線の出着信の制御や内線電話の接続をコントロールする構内交換機を示します。

Private branch exchange の略語

(9) CNG 信号

ファクス端末やファクスサービスが電話回線の上に送出する信号です。受話器からは「ポー」という音として聞こえます。この信号は非音声機器であることを示しており、1100Hz で 0.5 秒送出、3 秒停止を繰り返します。

(10) ビジートーン（話中音）

発信局に対して、受信局が話し中等の理由で回線が繋がらないことを示す音です。受話器からは「ツー、ツー」という音として聞こえます。400Hz で 0.5 秒送出、0.5 秒停止を繰り返します。

1. ワイヤレス固定電話局でファクス受信する場合

1.1. ファクス端末の着信設定

着信設定を有するファクス端末においては、手動受信設定もしくは、TEL/FAX 設定を推奨します。

(1) パーソナルファクス機

自動受信設定でファクス通信が可能ならば、そのままご利用できます。ファクス着信ができない場合は、以下「(2) ビジネスファクス機 (複合機)」の手順をお試しください。

(2) ビジネスファクス機 (複合機)

自動受信設定の場合、ファクス着信ができないことがあります。その場合は、TEL/FAX 設定に変更してください。

TEL/FAX 設定に変更しても、ファクス着信ができない場合は、手動受信設定に変更してください。

1.2. 受信手順

手動受信設定、または TEL/FAX 設定の場合は、呼び出しベルが鳴動後、オフフックもしくは受話器を取り、「ポー」という音 (CNG 信号) を 3 回以上 (8~12 秒程度) 聞いた後に、“スタート”ボタンを押下して、ファクス受信を開始してください。

一般局からの着信時にはファクスサーバーが先に応答し、CNG 信号を 3 回以上聞く前に回線が切断されます。その後、受話器からはビジー音が聞こえますので、そのままお切りください。ファクスサーバーからの着信時には CNG 信号を 3 回以上聞いてください。

自動受信設定の場合は、通信エラーとなりファクス受信ができない場合があります。

2. ワイヤレス固定電話局から一般局へファクス送信する場合

2.1. プレフィックス番号

プレフィックス番号である「0009」を発信電話番号の前に付加しないままファクス送信を行うと、通信エラーになります。

ファクス送信を行う場合は、必ずプレフィックス番号を付加してからダイヤルするか、ターミナルアダプタ上の「FAX」ボタンを押下後 1 分以内にダイヤルしてください。

2.2. 通信画質解像度

解像度設定をウルトラファイン（16x15.4 l/mm もしくは 400 dpi）以上にして原稿を送信すると、自動的にスーパーファイン（8x15.4 l/mm）まで解像度が低下します。

高解像度で送信が必要な場合は、通常の電話回線でのファクスをご利用するか、ファクス以外での方法で文書の送付を行ってください。

2.3. 通信相手の電話番号

通信相手の電話番号である TSI 情報と CSI 情報の伝達できません。そのためファクス端末で TSI 情報や CSI 情報を使った機能は動作しません。

そのため、通信履歴や通信管理レポート等には、相手先情報が記載されません。

回避方法はなく、注意が必要です。

2.4. Fコード通信

Fコード通信情報の伝達できません。そのためファクス端末で Fコード通信情報を使った機能は動作しません。Fコード通信情報を使ってファクス通信を行った場合は、通信エラーになります。

回避方法はなく、注意が必要です。

2.5. メーカー独自機能

メーカー/ファクスサービス事業者独自の通信情報の伝達できません。そのためファクス端末やファクスサービスで独自の通信情報を使った機能は動作しません。

回避方法はなく、注意が必要です。

2.6. 通信時間

ファクス通信においてスーパーG3 で通信ができません。そのためノーマル G3 の通信までフォールバックされ通信速度が遅くなります。また、ターミナルアダプタ、ファクスサーバーを介して通信が 3 回に分かれてしまうため、最終的な通信時間の合計は通常のファクス通信に比べて概ね 2～3 倍に伸びます。

回避方法はなく、注意が必要です。

2.7. TEL/FAX 切り替え

音声通話（電話）の途中でファクス送信への切り替えを行うと、通信エラーになります。ワイヤレス固定電話局からファクス送信する場合は、ダイヤル時にプレフィックス番号の付加が必要です。

ファクス送信する場合は電話を終了させてから、プレフィックス番号を付加して再ダイヤルしてください。

2.8. ポーリング機能

ポーリング機能（送受信ともに）の通信はできません。そのためポーリング通信を行うと、通信エラーになります。

回避方法はなく、注意が必要です。

2.9. 長尺原稿送信

通信上の制限はありません。ファクス端末やファクスサービスの動作仕様に従います。

2.10. エラーレポート返送

ファクス送信中にワイヤレス固定電話網（受信側のファクス端末を含む）で何かトラブルが発生し、最終的に送信できなかった場合には、エラーレポートが送信側にファクスとして返信されてきます。このような場合、ファクス端末の送信結果（結果表など）が「完了」となっているにもかかわらず、最終的に送信出来ていないことになります。

エラーレポートに記載されている内容を確認して、対応を行ってください。何度も通信エラーが発生する場合には、「4.1. お問い合わせ窓口 局番 113」にて確認してください。

ファクスサービスを利用している場合は、エラーレポートを受けられない場合があります。

また、お客様の回線使用状況等によりエラーレポート返送自体が届かない場合（ファクス通信エラー等）があります。ファクスが正常に送信されているかを、通信先のお客様に電話やメール等にて確認す

るようにしてください。

2.11. 発信専用番号：内線交換機（PBX）環境下

PBX 環境下に接続されているファクス端末から発信専用番号を使ってファクス送信した場合のエラーレポートは、実際にダイヤル発信に使用された代表番号に返送されます。そのため代表番号に設定されるダイヤルには、ファクス端末を設置してください。エラーレポートが受け取れないと、最終的な通信エラーの内容が確認できなくなります。

3. 一般局からワイヤレス固定電話局へファクス送信する場合

3.1. プレフィックス番号

プレフィックス番号を付加する必要はありません。通常通り相手先の電話番号をダイヤルしてください。

3.2. 通信画質解像度

(2.2.と同じ振る舞いになります。)

3.3. 通信相手の電話番号

(2.3.と同じ振る舞いになります。)

3.4. Fコード通信

(2.4.と同じ振る舞いになります。)

3.5. メーカー独自機能

(2.5.と同じ振る舞いになります。)

3.6. 通信時間

(2.6.と同じ振る舞いになります。)

3.7. TEL/FAX 切り替え

音声通話（電話）の途中でファクス送信への切り替えを行うことができます。ただしワイヤレス固定電話局の操作やタイミングによっては通信エラーになることもあります。

3.8. ポーリング機能

(2.8.と同じ振る舞いになります。)

3.9. 長尺原稿送信

A3 縦長（420mm）超えの長尺原稿をファクス送信した場合、A3 縦長で画像が切られ、最初の A3 縦長のページのみ送信されます。受信機側は A3 縦長での 1 ページ受信となります。

送信原稿は A3 縦長（420mm）を越えないようにしてください。

3.10. エラーレポート返送

（2.10.と同じ振る舞いになります。）

3.11. 発信専用番号：内線交換機（PBX）環境下

（2.11.と同じ振る舞いになります。）

4. 困りごと、お問い合わせ

4.1. お問い合わせ窓口 局番 113

NTT 東西の電話サービスの故障受付局番「113」にお問い合わせください。ワイヤレス固定電話網の事象は、メーカー/ファクスサービス事業者では対応できません。

NTT 東日本 :

<https://web113.ntt-east.co.jp/>

NTT 西日本 :

<https://www.ntt-west.co.jp/trouble/>

4.2. ワイヤレス固定電話

通信先のお客様がワイヤレス固定電話サービスをご利用されているかどうかは、メーカー/ファクスファイブ事業者ではわかりません。また NTT 東西からも情報開示はいただけません。通信先のお客様に直接、電話かメール等でのお問い合わせを行ってください。

4.3. NTT 東西からの情報公開

ワイヤレス固定電話サービス開始情報

NTT 東日本 :

https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20240307_01.html

NTT 西日本 :

<https://www.ntt-west.co.jp/news/2403/240307b.html>

ワイヤレス固定電話の新規申し込み

NTT 東日本 :

https://web116.jp/shop/annai/wireless/wireless_00.html

NTT 西日本 :

<https://www.ntt-west.co.jp/denwa/mousikomi/wireless/>

5. サービスの主なファクス仕様の対応表

項目	ワイヤレス固定電話局から一般局へのファクス送信	一般局からワイヤレス固定電話局へのファクス送信
プレフィックス番号	必要	不要
通信画質解像度	最大 8 x 15.4 line/mm	最大 8 x 15.4 line/mm
通信相手の電話番号	TSI/CSI 情報は交換しない	TSI/CSI 情報は交換しない
Fコード通信	不可	不可
メーカー独自機能	不可	不可
通信時間	概ね 2~3 倍に伸びる	概ね 2~3 倍に伸びる
TEL/FAX 切り替え	不可	可
ポーリング機能	不可	不可
長尺原稿送信	ファクス端末の動作仕様に準拠	A3 縦長で切り捨て
エラーレポート返送	確認可能	確認可能
発信専用番号	代表番号にファクス端末を設置	代表番号にファクス端末を設置

「NTT 提供のワイヤレス固定電話サービスにおけるファクシミリ対応ガイドライン」

発行日 : 2024 年 5 月発行

発行 : 一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会
〒103-0026
東京都中央区日本橋兜町 21-7 HF 日本橋兜町ビルディング 6 階
<https://www.ciaj.or.jp/>

発行責任 : 画像情報ファクシミリ委員会
<https://www.ciaj.or.jp/gazou/index.html>

本冊子に掲載されている文章および画像等の無断使用及び転載はご遠慮下さい。